

《情報公開文書》

ICU入室後24時間の「持続性」および「一過性」頻呼吸パターンが
その後の気管挿管リスクに与える影響：JIPADを用いたランダムマーク解析

研究の概要

【背景】

急性呼吸不全を患った患者さんの「呼吸数」が多いと治療経過が悪くなることは知られていますが、これまでの研究では「ある時点の呼吸数」や「最大呼吸数」が注目されています。ICUに気管挿管をしていない状態で入室した急性呼吸不全の患者さんにおいて、「持続性」頻呼吸がその後の気管挿管リスクや治療経過にどう影響するかは明らかではありません。

【目的】

ICUに気管挿管をしていない状態で緊急入室した急性呼吸不全成人患者において、ICU入室後24時間以内の最大・最小呼吸数の組み合わせに基づいた呼吸パターンが、入室24時間以降の遅発性気管挿管および治療経過とどのように関連するか明らかにすることを目的としています。

【意義】

この研究により、気管挿管リスクを高めて治療経過を悪くする呼吸パターンを明らかにすることで、将来的に同じような急性呼吸不全を患った患者さんの治療方針決定や治療成績向上に役立つことができます。

【方法】

日本集中治療医学会が管理するJIPAD（日本ICU患者データベース）という全国のICUの情報を集めたデータベースを使用します。2015年4月から2024年3月までの間に急性呼吸不全でICUに緊急入室された成人患者さんのデータを分析します。

対象となる患者さん

2015年4月1日から2024年3月31日の期間中に、日本集中治療医学会JIPADデータベースに参加している全国の病院のICUに、気管挿管をしていない状態で急性呼吸不全が原因で緊急入室された成人患者さんが対象となります。

研究に用いる情報

本研究では、日本集中治療医学会 JIPAD データベースに既に個人が特定できない形で登録されている以下の情報を使用します。

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

- 患者さんの基本情報（年齢、性別、身長、体重、これまでの病気、入院日、退院日など）
- ICU 入室時の状況（入室の理由、緊急度、意識状態など）
- 病気の重症度を表すスコア（APACHE II、SOFA スコアなど）
- 治療中の身体の状態（呼吸数、血圧、脈拍数、体温、血液検査の結果など）
- 受けた治療内容（人工呼吸器の使用、血圧を上げる薬の使用、透析治療など）
- 治療経過（気管挿管の有無、ICU にいた期間、入院期間、回復状況など）
- 病院の情報（病床数、医療スタッフの人数など）

重要なお知らせ

本研究で使用するデータは、既に個人を特定できない状態で匿名化された JIPAD からの情報です。よって、個別の患者さんを特定することはできず、研究対象から除外するオプトアウトの対応はできません。

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

情報の利用開始予定日

本研究は 2026 年 3 月 26 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

既に個人を特定できない状態で匿名化された JIPAD データベースの情報を使用するため、個別の患者さんを対象から除外することはできません。この点について、ご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2028 年 3 月 31 日

研究実施体制

研究責任者

所属：長崎大学病院 集中治療部
氏名：金子 翔平
住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1
電話：095 (819) 7370

情報の管理責任者

長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容について】

長崎大学病院 集中治療部 担当者名（金子翔平）

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話：095（819）7370 FAX 095（819）7373

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）